

【正しい投球動作の指導について】

ウインドミル投法でジャンピングやツーステップが認められてから数年が経ちますが、正しい投球動作を指導出来ていないチームが目立ちます。

試合中の判断は主審に権限がありますが、不正投球であっても「試合中に指導をすると子供達は投げられなくなる。」「試合後に注意をしておきます。」～との説明で実際は試合中にイリーガルを宣告する審判員は少ないのが現状です。

どんなに名投手でも投球動作に問題があれば、その子に将来性はありませぬ。正しく導くことが指導者の役目です。6年生最後の県ちび本番で、注意を受け投球が出来なくなる選手は本当に可哀そうです。試合も台無しです。また、不正投球をするチームに負ければ大会役員や審判員に対し文句も言いたくなりませぬ。お互いに苦い思い出しか残りませぬ。

鹿児島県ちびっこソフトボール大会を成功裏に終える為にも、そのような状況を作ってはなりません。あと2か月で問題のある投球動作に対しては、県役員が中心となって情報を共有して指導・改善を図っていきましょう。

投手が正しい投球動作になっていない事に気づいていない監督もあり、スマホ等で動画を取り、冷静に伝えることが出来れば必ず理解して頂けると思いません。県ちびっこソフトボール大会は、県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会の主催事業です。自分たちで全力を尽くして改善して行きましょう。

子供達の未来のためにも、本番では協会の審判員に厳しい判定を依頼します。

オフィシャルソフトボールルール 【6-1項 投球の準備】

3, 投手板を踏むときは、必ず両手を離して、軸足を投手板に触れておかなければならない。その時、一塁と三塁を結んだ線に両腰を合わせる。

5, 投球動作に入るときは、身体の前または横で球を両手で持ち両足を投手板に触れている状態、もしくは軸足を投手板に触れながら自由足を後方に置いた状態で、2秒以上、5秒以内身体を完全に停止しなければならない。

【6-3項 正しい投球動作】

6, 打者に対して自由足を一步踏み出すと同時に、投球しなければならない。自由足を踏み出す範囲は、投手板の両端の前方延長線内でなければならない。

7, 投手の軸足は、前方へ引きずったり、跳んだりする前は、投手板に触れていなければならない。

8, 投手板から軸足をずらして（投手板から離れた地点から）投球を開始し、投手板以外の地点を蹴り出して投球すれば、不正投球である。（クローホップ）